

### 【現行NAPの課題】

- ギャップ分析がなされなかった  
➡ 施策に多くの「穴」が  
実効性を目指した時に「穴」は見える
- 「理解促進と意識向上」（優先分野）の先の政策が見えない  
➡ 実際に人権尊重ができるようになるための「能力構築」が今後は重要
- ステークホルダーとのエンゲージメントが不十分なプロセス



### 「ビジネスと人権」に関する行動計画 (2020-2025)

### NAPの87施策

現状は  
ほとんどが  
アウトプット  
指標

### 【政策の課題／政府組織の課題】

- 人権政策は政策領域ごとの「点」で断片化してきた  
➡ 横串で「線」へ、当事者視点で「面」へ、が次期NAPの大きな課題
  - 年度ごとの予算システムのためアウトプット指標になりがち
  - 頻繁な人事異動がネックに

➡ マルチステークホルダーによるフォーラムの制度化で克服へ

重要

- ステークホルダーとの継続的な対話
- 政策の一貫性
- 指標を軸にした改善
- SDGs自発的国家レビュー（VNR）も踏まえて

### 人権指標

- ① 構造指標
- ② プロセス指標
- ③ アウトカム指標

数値情報のほか  
定性的な情報や主観的な評価も

当事者の  
声・実感

制度が実際に  
使えているか

社会の空気や  
態度の変化

ナラティブ  
な情報

- ✓ 施策の実効性を多面的に評価、検証可能
- ✓ 数字データが不足している分野でも柔軟に対応可能
- ✓ 脆弱な立場の人々の権利の実現状況を測定可能

NAP施策の評価には人権指標が有効

必読

「3年目意見交換のためのレビュー  
に関するステークホルダー報告書」

effectiveness  
施策の実効性は？

アウトプット

アウトプット指標  
(レシピ通りか?)

料理に例えると、レシピ通りに政府は実施するが、本当に美味しいか（効果があるか、人権の実現につながっているか）が重要。

アウトカム

アウトカム指標  
(美味しいか?)

#### ★アウトカム指標の課題

- ・ 時間スパンの取り方
- ・ ロジックモデルのつながりの明確化

#### ★救済でも効果（実際に救済に結びついたか）が重要

- ・ 案件の処理件数だけでなく案件の種類や手続きの適切さも測るべき

効果を  
測るためには  
アウトカム  
指標が必要

インパクト

- ・ 効果のタイムラグあり（とくに規範や意識）
- ・ 他の要因の影響あり

効果？

社会の隅々この  
困っている人

人権侵害

マグマ

構造的な問題（社会の規範、差別、…）

対処

国内人権機関、差別禁止法など = 国家の人権保護義務  
はやはり重要

（作成：CSOネットワーク）